

近居と同居における「孫共育」の比較 親子ネットワーク居住の実態調査(1)

二世帯 家族形態 ネットワーク居住  
育児協力 近居 三世代同居

正会員 同 同 同  
○松本 入澤 添田 任  
吉彦\*1 敦子\*1 昌志\*2 智顯\*2

1. 調査の目的

「孫共育」とは、二世帯同居において子世帯の子である孫の教育に親世帯が共に関わる住まい方を指す造語である。ネットワーク居住による育児協力の存在は知られている<sup>\*1</sup>が、本報では近居と同居での育児協力を比較することでその質的な差を明らかにすることを目的とする。

2. 調査の対象

ハウスメーカーA社の建設した注文住宅の居住者を対象にメールを送付し、アンケートサイト画面で回答を依頼した。調査は2回に分けられ、それぞれ質問内容と調査対象者の属性が異なる(表1)。

表1: 調査概要

調査1. 親子の交流に関する実態調査  
調査時期: 2009年3月  
調査対象: 子世帯で下記条件に適合する方(回答者は夫婦のいずれか)  
1) 親世帯と近居又は同居 2) 中学生以下の子がいる  
調査方法: 戸建て注文住宅居住者に対するWebアンケート  
調査エリア: 関東~東海~関西~山陽~北九州の各都府県

分離状況	息子夫婦・娘夫婦同居・近居	親世帯家族				子世帯妻の就業形態			
		両親	母親	父親	その他・不明	共働き	専業主婦	その他・不明	
近居・隣居	息子	53	36	10	4	3	27	26	0
	娘	40	29	9	1	1	21	19	0
分離同居 (キッチン各世帯専用)	息子	52	35	16	1	0	17	36	0
	娘	26	11	12	3	0	16	11	0
融合同居 (キッチンは両世帯共用)	息子	21	12	5	4	0	13	6	2
	娘	15	8	6	1	0	8	7	0

調査2. 祖父母と孫の関係  
調査時期: 2010年3月  
調査対象: 親世帯で下記条件に適合する方(回答者は夫婦のいずれか)  
1) 親世帯と近居又は同居 2) 中学生以下の子がいる  
調査方法、調査エリアは「調査1」と同様

分離状況	息子夫婦・娘夫婦同居・近居	親世帯家族				子世帯妻の就業形態	
		両親	母親	父親	共働き	専業主婦	
近居・隣居	息子	141	134	4	3	72	69
	娘	96	94	1	1	52	44
	その他・不明	56	-	-	-	-	-
分離同居	息子	93	88	0	5	41	52
	娘	47	45	1	1	24	23
	その他・不明	3	-	-	-	-	-
融合同居	息子	18	17	0	1	8	10
	娘	29	25	2	2	21	8
	その他・不明	7	-	-	-	-	-

3. 家事・育児協力内容の違い

親の協力内容では、近居同居共通で育児が多い。融合同居で若干少ないのは、食事や家事の協力が進んでおり、育児協力という意識が薄いと思われる。留守番に関係する項目は同居共通で近居より多く、食事家事の協力は融合同居に限って多い特性がある。

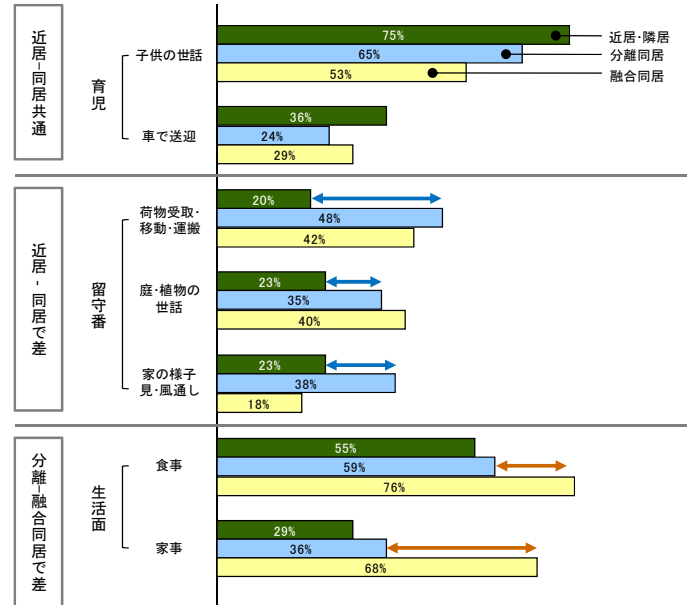


図1: 親にしてもらったことがある協力(複数回答)(調査1)

4. 交流頻度の違い

親世帯と子世帯の区分が明確でない融合同居を除き、世帯間行き来の頻度を比較する。近居は1日1回以上が、13-25%に過ぎないが週1回以上では43-63%に達する。息子夫婦、娘夫婦による交流頻度の差は小さい。分離同居では1日1回以上が44-89%を占め、近居より交流頻度ははるかに密である。交流方向では子世帯→親世帯への訪問が多く、親世帯が子世帯へ行くことは少ないのが共通の傾向であるが、特に息子夫婦の分離同居ではこの特徴が顕著である。

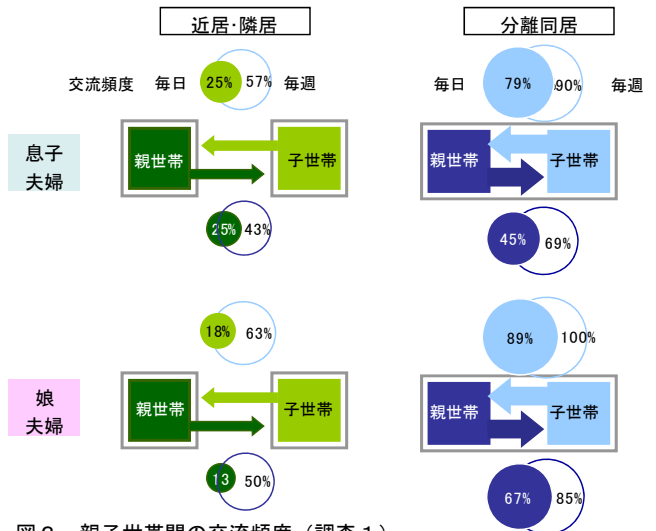


図2: 親子世帯間の交流頻度(調査1)

## 5. 育児協力の質の違い

近居隣居-分離同居-融合同居の順に、「日常的にいつも」孫の世話をしていることが多くなる。いずれも娘夫婦の方が息子夫婦よりも頻度は高く、分離度が高いほどその差が大きい。

現在している孫の世話としては、分離度による差が特徴的なグループに分けて比較した。留守時の世話、送り迎えといった項目では近居隣居と比較して分離同居-融合同居の差が小さく、同居共通で多いと言える。一方で、食事準備などの日常生活に関するもの、病気に関するものでは融合同居のみが比較的多い。近居隣居-分離同居の差は小さく、生活を分けることで協力関係が影響されている項目といえる。対外的窓口としての機能は融合同居に限られる。

最も楽しい孫との関わりを聞いた自由回答の分析からは近居隣居でイベント的な行為を挙げた例が多いのに比べ、分離同居、融合同居では日常生活における行為を挙げる人が多い。

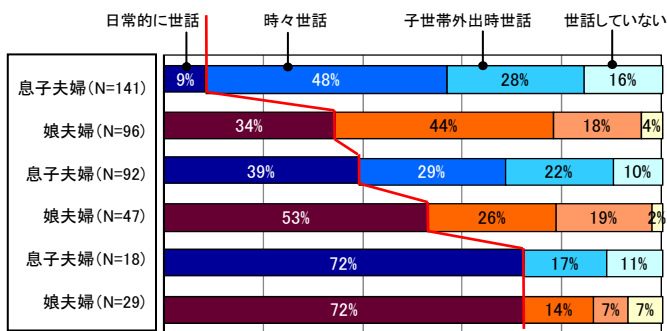


図3：孫の世話をする頻度（調査2）

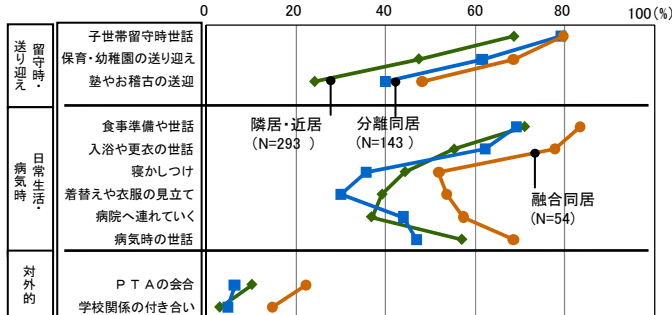


図4：現在している孫の世話（調査2）

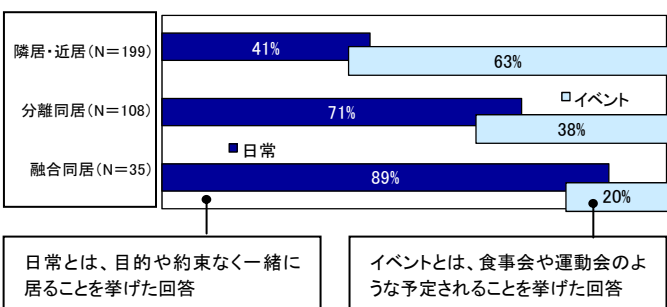


図5：最も楽しい孫との関わり（調査2 FAより分析）

## 6. 孫共育へのスタンスと評価

融合同居では親世帯が孫のしつけを担う、という回答が合計して半数を超え、近居隣居と分離同居に比べ大きな差がある。孫の成長等への影響では礼儀正しい、高齢者にやさしいといった項目では三者に差があり、融合するほど評価は高い。また、孫による生活の変化でも融合するほどよく話し、よく笑い、気持ちが若くいられるといった評価を得ている。

## 7. まとめ

近居・隣居では、育児協力の経験は同居と変わらず多いが、交流頻度が週1回程度で、日常的な世話ではなく、イベント的である。

分離同居では、交流頻度は毎日であり、留守番や送り迎え等日常的に世話するケースが増える。

融合同居では、さらに食事が一緒であり、日常的に生活が一体となり、孫のしつけも親が担うケースが過半となる。孫は同居により礼儀正しく高齢者にやさしいと評価され、祖父母の張り合いも大きい。

\*1：ネットワーク居住の基本的特性およびライフサイクルで見るネットワーク居住構造分析：近江隆ほか、日本建築学会計画系論文集 2007.9 p149-156

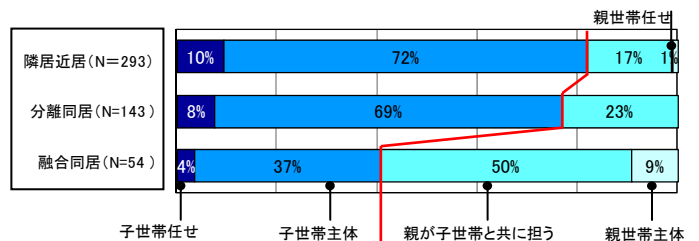


図6：孫のしつけについて子世帯に対するスタンス（調査2）

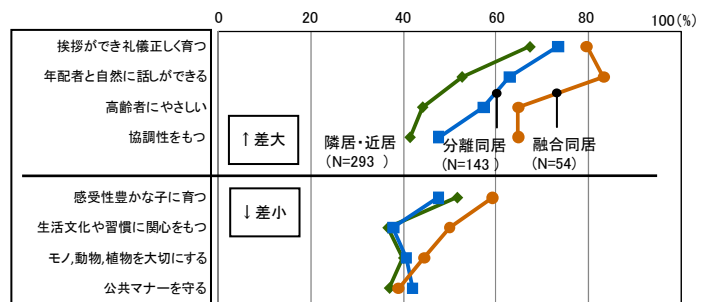


図7：孫の成長や人間形成に与えた影響（調査2）

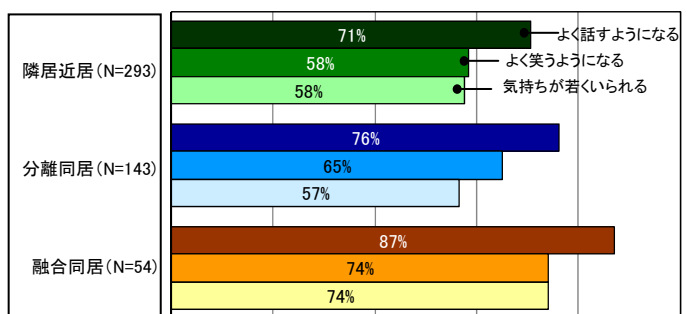


図8：孫との関わりによる生活の変化（調査2）

\* 1 旭化成ホームズ くらしノベーション研究所  
\* 2 LLP 人間環境デザイン研究所

\* 1 Asahikasei Homes Co. Research Institute of Lifestyle Innovation  
\* 2 LLP Human Environment Design Laboratory